

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100447
法人名	社会福祉法人 恵林
事業所名	グループホーム りすの国・くるみの木
所在地	群馬県高崎市井出町 1296 (電 話) 027-344-9881
評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 19年 11月 28日

【情報提供票より】(19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤専任 11人	非常勤 2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 階 ～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 400 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ	円
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低 76 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真木病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入浴への支援については遅番を当てての夜間対応を行っている。また、日勤対応でも基本的には日時を定めてはいるものの意向の確認を行い、利用者の希望に応じて実施している。全職員で話し合いの上、「いつも元気で、お互いに信頼し合い、十人十色の生活を」と、掲げた理念に基づき、各自に応じて毎日の散歩・買物等個別の支援が実践されている。介護支援専門員が常勤の管理者代理を兼務していることから、日常的に利用者との関係性が密であり、利用者の把握や職員との連携により、確実なモニタリング及び定期的な介護計画の見直し等、職員全体による取り組みが行なわれている。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・運営理念の啓発＝グループホーム独自の理念や活動が地域に理解されるよう働きかけを(前回評価)⇒全職員で話し合いの上グループホーム独自の理念が成立。高校生のJRC活動等を通じて地域との交流を図って行きたいとの事。・緊急時の手当＝法人内での協力体制のみならず勤務者は応急手当が出来るようマニュアル化や訓練の検討を(前回評価)⇒消防署に依頼し、急変・AED活用等の研修をグループホーム職員も参加して行なわれた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、管理者代理が各ユニットリーダーに確認の上、記載を行なったため、その他の職員間での話し合い等の取り組みはなされなかった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的(1回/3ヶ月)開催されており、サービスの実施状況等の報告を行っている。又、各委員より出された意見については、議事録を基に全体会議で話し合い、今後のサービスの質の向上に生かすように務めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情受付担当者(施設長・管理者・管理者代理)が明記されている。1回/月市派遣の介護相談員の訪問により、利用者等からの意見・要望をノートに記載して頂き、全体会議で検討・改善を行ない運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人の行事として1回/年「恵林祭」を開催し、地域との交流を図っている。又、近隣高校のJRC活動でのボランティアを法人として受け入れているが、現在はグループホームでの活動は行なわれていない、今後はこの活動を通して高校生との交流の機会として行きたい。又、自治会や老人会等に働きかけ地域活動への参加を取り組んで行きたいとの事。地域の一員として積極的に日常的な交流の機会を期待したい。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個別にその人らしい生活支援に向け「いつも元気で、お互いに信頼しあい、十人十色のせいかつを」と、ホーム独自の理念が掲げられている。	○	個別性を重視した支援が確立されてはいるが、地域密着型サービスとしての観点から、理念として、地域の中での生活を意識した内容を組み入れる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員全員で話し合いの上設定した。1回／月開催の全体会議で理念が実践できるよう確認を行い、日常的には朝・夕の申し送り時等で唱和している。又、ホール内等に理念が掲示されており、全職員で共有し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の行事として1回／年「恵林祭」を開催している。又、地域のお祭り「埴輪の里まつり」に参加する等、地域での交流の機会とはなっているが、ホーム独自としての交流は図られていない。	○	法人としては、近隣高校より1回／週JRC活動のボランティアを受け入れているが、ホームでは受け入れていない為、今後は近隣高校との交流を始め、自治会や老人会等へ働きかけ地域活動の参加に取り組んで行きたいとの事。ホームが地域の一員として積極的に地域の活動に参加し、日常的な交流の機会を深める事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しているが自己評価については、管理者代理が各ユニットリーダーに確認し記載を行ったため、他の職員間での話し合い等の取り組みはなされなかった。	○	評価項目内容等の意義を全職員が理解し、評価結果等を活用することにより、職員が共により良いサービス提供を目指すためにも、職員全員での取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回／3ヶ月開催しており、サービスの実施報告等を行っている。又、各委員から出された意見は、議事録を基に全体会議で話し合い、今後のサービスの質の向上に活かすように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1回／3ヶ月開催される運営推進会議には、市役所職員の出席があり意見交換を行なっているが、それ以外は事故等の報告書や提出書類等の必要最低限での関わりが現状である。	○	地域密着型サービスの観点からも市との連携が不可欠であることから、運営推進会議開催の月以外にもサービス実績状況等の報告を兼ねて、市担当者との連携を深める働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1回／月ホーム便り「こりすだより」を発行し、行事やおしらせ等を掲載し家族に発送している。又、利用者の作品等を廊下に掲示して面会時に見て頂き、ケース担当者が日常の様子を伝えている。健康状態の変化については、随時電話にて報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者(施設長・管理者・管理者代理)が明記されている。1回／月市から派遣された介護相談員の訪問により、利用者等からの意見・要望をノートに記載し、内容に応じて全体会議で検討・改善を行なう等で運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージ等を考慮の上、法人内での異動等は行なわないよう必要最小限に努めている。離職・異動等の際は、慣れるまで(1ヶ月程度)職員が教えながら一緒に行動することで、特に今迄はダメージ等は感じられない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修(リスクマネジメント・救急救命法等)を実施している。外部研修については、グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会等に参加している。受講者は報告書を提出し、全体会議等で報告を行い他の職員との共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、職員のレベルアップ・事例検討等の研修参加を通して交流を図り、質の向上への取り組みが行なわれている。今後は、現在取り組み中の事例発表を行なう予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者が入院中であっても外出して本人が直接見学し、納得した上でのサービス利用となるよう、家族等との連携を図り、利用者が安心して利用できるようながけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で各自の力量が活かせるように調理・裁縫・食器洗い等、職員と共に行っている。又、お花の先生や調理師等の職歴者がおり、利用者から学ぶことも多く、支え合いの関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者各自の生活歴や家族からの聞き取りで意向の把握を行い、出来る事への継続的な支援を心がけている。又、日常生活の様子から確認し、アセスメント表の活用により、利用者本位に向けての検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1回／月開催のカンファレンス時にケース担当者が主となり、前回の介護計画について家族に確認を行い、家族等の意見を汲み取り、職員全員で話し合いの上、利用者に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1回／月モニタリングを行い、1回／3ヶ月の定期的な見直しを行っている。又、心身の状態に変化が生じた場合は、職員間で話し合い、現状に即した介護計画の見直しが随時行なわれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族による受診を基本とはしているが、都合に応じての受診支援が行なわれている。又、毎日晚酌をしている利用者がおり、希望に応じて一緒にお酒を買いに行く等の個別的な支援が行なわれ、柔軟な支援体制が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の過半数の人が、入居以前のかかりつけ医へ継続的に受診している。それ以外の方は、契約時にホーム協力医について説明を行い同意を得ており、1回／月の受診支援が行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に契約書と共に重度化等についての説明を行っている。過去に家族の意向により、ホームで終末期を過ごした事例があり、その際には「同意書」を取る等、終末期に向けての具体的な指針がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳やプライバシーに配慮し、会議時の内容等は外部で話さないよう徹底している。又、入職の際に「個人情報保護」についての誓約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族から今迄の暮らしの様子を把握し、利用者一人ひとりの個性を大切に、絵を描く・花を生ける・調理等、各自のペースを保ちながら過ごせるような生活支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、調理から後片づけ迄の一連の動作を職員と一緒にやっている。毎日利用者と共に食材の購入に出かけ嗜好等についても配慮している。又、食事時は職員が各テーブルに同席し、会話をしながらの支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に基本的には3回／週午後に入浴を実施しているが、入浴日以外でも希望があれば他のユニットでの入浴も可能となっている。又、夜間入浴(19:00～21:00)希望者(2～3人)がおり、遅番職員が対応している等の希望による入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各自の生活歴等を把握し、家事(調理・洗濯物たたみ等)や趣味(絵を描く・花を生ける等)が日常的に継続できるよう支援している。又、日記を毎日付けている人がおり、職員との交換日記を行なう等の支援も行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1回／2ヶ月程度、ケース担当者が一緒に希望の食事(寿司等)を食べに出かけている。又、毎日散歩に出かける人、食材の買物を近隣のスーパーへ一緒に行く等、日常的な外出支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、日中は玄関に施錠しないケアの実践に取り組んでいる。居室については、利用者自身が中から施錠する人がおり、必要時には合鍵で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回／年避難訓練を実施している。消防署の指導の下、避難訓練・消火訓練を実施。他夜勤帯を想定し夜勤者と宿直者による避難訓練が行なわれ、マニュアル及び実施記録等がある。又、同敷地内の老人保健施設等との協力体制が図られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者から希望を募り献立を作成し、職員に栄養士がいるため栄養バランス等についてアドバイスを受けながら工夫している。又、食事チェック表・水分チェック表の活用により、個々の健康面等を考慮した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からウッドデッキへと続いており、採光も適度で開放的であり、庭の植木や鉢植えの花等、景観も良く季節感が味わえる。又、廊下の壁に手づくりの日めくりカレンダーや利用者の作品等、装飾の活用により居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には机や本立て・賞状・写真等が持ち込まれおり、慣れ親しんだ作品が飾られている等、各利用者が安心して過ごせるような配慮がなされていた。		